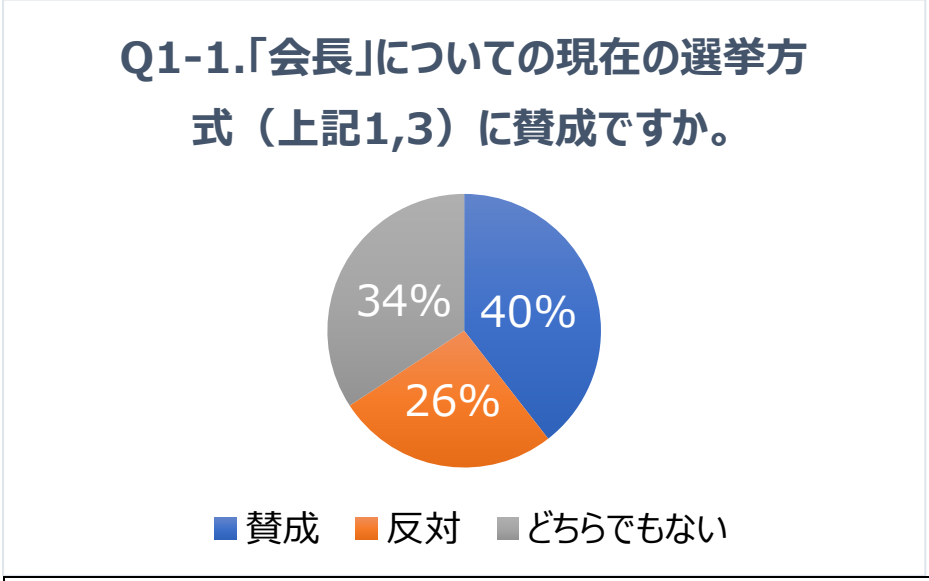
■日本大気化学会「役員選挙」に関する会員ウェブアンケート結果

2019 年 7 月
第１０期運営委員会　選挙制度 WG

2019/5/8～5/31 に実施しました当アンケートには、会員の皆様のご協力をいただきありがとうございました。6/2 までにいただいた、39 件のご回答を以下のように集約しましたので、ご報告いたします。なお、今回のアンケート項目と内容は末尾に参考として掲載しています。この結果をうけて、第１１期運営委員会では次回以降の役員選挙へ反映すべく、議論を進めていく方針ですので、引き続き、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。



■賛成の方の意見：

（候補者制が機能するほどの規模ではなく、現状方式のよさを述べた意見）

・複数の方に立候補して頂き、会員が直接選挙により選出する方法が良いと思いますが、母体が大きく無い場合、立候補される方が継続的に表れるのか？という点がネックになるように思います。したがって、会員の意思が直接反映されるという意味で、現行の会長の直接選挙の方法が良いのではないかと思います。

・立候補・他薦制とすることも一考に値するが，必ず二人以上の候補者を立てることが条件．それが出来ないなら現行通りが望ましい．一人にしぼった信任投票は最悪.

・現在の選挙方式は、選挙戦にならない。選挙戦の方式となった場合には、役員の意向をより強く反映した学会運営になると考えられ、「政治力」を発揮する場が大きくなる。日本大気化学会には、引き続き学問に注力した運営を希望するため、現在の方式の維持が良いと考える。

・今ぐらいの規模であれば、だいたい顔が見えるので直接選挙で問題無いように思います。会員数が 500 人をこえるぐらいまで成長したら、候補者を推薦し（推薦人５名程度でまず候補者を数人あげる）、それらの候補者に対して直接選挙というのを考えても良いように思います。

・現行の方式では、投票できる候補が多いため新規の会員には候補を選びづらい面があるかもしれませんが、シンプルで良いと思っています。
・それほど大きく無い学会なので、直接選挙は重要と思います。
・会員による直接選挙制はよいと思います。

■反対の方の意見：

（立候補・推薦制を支持する意見）

・選挙は立候補を伴うべきと考えます。やる気のない人に会長職を押しつけるべきではないからです。大気化学会は小さな学会ですから施政方針演説は必要無いと思います（会員はほぼ全員顔見知り）。
・現行方式では、本人の意思が無くても選ばれてしまったり、担当できる状況にない人が選ばれる可能性がゼロではない。立候補及び運営委員会からの推薦により候補者を提示して選挙とすることが望ましいように思われる。候補者について、履歴と施政方針を記した公報を作成する。当選に必要な条件（「選挙権を持つ会員の過半数の投票があって選挙が成立、投票の過半数を得て当選」など）も決めておいた方が良いと思う。
・時代によりますが、今の右肩下がりの時代は、学会の発展のためには、ある程度引っ張っていける人が必要になっていると思います。意図せず選ばれ、仕方なく務めるのは発展性がないと思います（特に会長は）。低い得票数なのは、会員のモチベーションも上がりません。会の発足当時と比較して、明らかなリーダーが不在であるし、今からの時代は様々な形のリーダーがいて良いと思うので、自薦・他薦の併用、施政方針を示す、などがあると良いと感じます。
・立候補制、推薦制にするのがよいと思います。少ない票数での選出や、さらに、少ない票数で僅差で会長になる、といった事態を避けるためです。
・自薦・他薦期間を設けて欲しい。もちろん自薦・他薦以外の一般会員に対する投票も有効にして欲しいが、自薦・他薦を基本にして欲しい。
・会長についてはある程度の「意思」を持った方の中から選ぶのが良いと思います。全く意思のない方のために票が無駄になることが避けられます。エントリー方法は立候補でも推薦でも良いと思いますが、推薦（自薦、他薦どちらでもよい）とした方がハードルが下がる感じがします。このような方式にした結果、推薦者が 1 人だけになる可能性も出てきますが、信任投票の形で会員の意思が反映できればそれで良いと思います。この場合は信任のための数字（たとえば有効投票の過半数など）を決めておく必要があります。
・下馬評で決まるときは問題ないが，そうでない時に表が分散しそう．立候補や他薦も加えてよい思う．立候補の方には記をつけるなどして，これまで通りの選挙をしてはどうか（他薦の場合は，本人の了承を得てから）．
・真摯に運営をやってくださるつもりの人が当選できない可能性があること、また、投票先がばらけやすく、少ない票数で当選となること。

（会長を互選すべきとの意見）

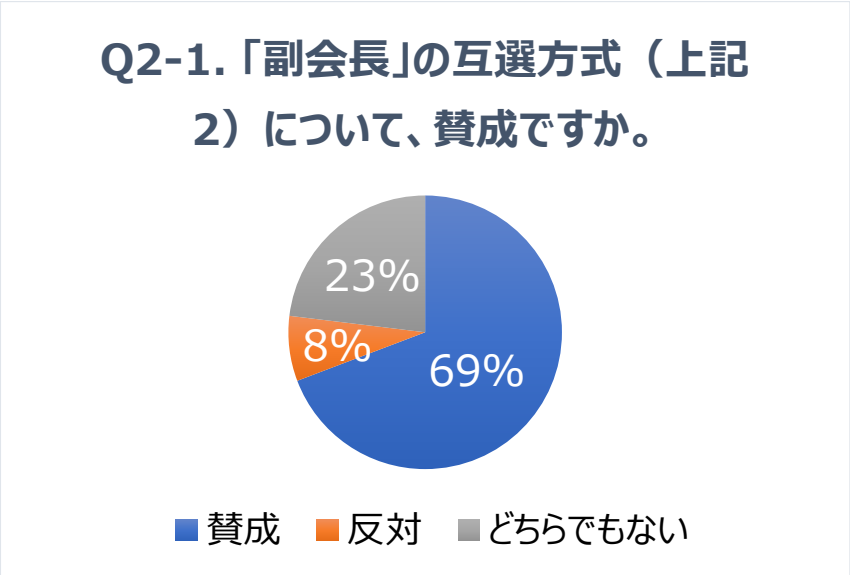
・会長を直接選挙せず、役員（運営委員または理事）から互選・投票とするのがよいと思います

■どちらでもないとした方の意見：

（立候補・推薦制のよさを述べた意見）

・メリットとして、各自がふさわしいと思う候補者を自由に挙げられる点がある。デメリットとして、票が割れてしまい、必ずしも多数の意見が反映されない点がある。立候補、推薦も受け付けたうえで、これまで

通り自由に投票する形式がよいのではないかと思う。
・現行でもよいが、他薦制もよいのではないかと思う。立候補制はうまく機能すればよいが、立候補者がない場合や１名しかいない場合もありうるので、危ないと思う。
・立候補制の導入をご検討ください。
・被選挙権は全正会員にあってもいいかと思うが、意欲のある方の立候補や推薦があってもいいと思う。投票先が分散するのは誰に入れていいのかよくわからず身近な人に投票してしまうからでは？
（何らかの方法で候補者を弱く絞るのが良いとした意見）
・直接選挙そのものには異議はないが、候補者はある程度絞った形のほうが良いのでは？一方、絞り過ぎもどうかと思うので、例えば、過去〇年での運営委員経験者（会長経験者以外）が会長の被選挙権を持つ、とか。
・誰でも可能性があるというのはいいと思うが、正直誰に投票していいのか、候補者がやる気があるのかなど全くわからなくて難しい。
（会長を互選すべきとの意見）
・「会長を直接選挙せず、役員（運営委員または理事）から互選・投票」がよいと思います。
（現状の方式のメリットを述べた意見）
・現在の方式もそれなりの良さはあります。大気化学会は規模も大きくないので、他の学会のやり方は参考にしつつも、身の丈に合った方式を考える必要があると思います。と言いつつも、私自身は良いアイデアはありません。
・自ら会長に立候補する会員は少ないと思われます。日本人的には周囲に推されて会長職になることを好むのではないでしょうか。会長職を争うという選挙は 300 名足らずの少ない会員の中でシコリが生じるかもしれません。現実的には信任投票のような選挙になってしまうのではないでしょうか。



■賛成の方の意見

（規模的に、また運営しやすさの点から、互選が適切とした意見）

・この学会の規模では、今の方式が良いと思います。

・副会長まで公選にすると、執行部にまとまりがなくなる可能性が高いです。副会長は、運営委員会の中から会長の意見もとりいつつ互選で良いと思います。

・小さい学会ですし、現行では副会長に多くの権限があるわけではありませんので、副会長まで選挙で選ぶ必要はないと思います。会長の運営のやりやすさを考えても互選方式の方が良いと思います。

・運営委員会の中で学会運営をしやすい体制をつくりやすいと思いますので、現行の制度で問題ないと思います。

■反対の方の意見

（次期会長を意識して、投票を行うべきとした意見）

・運営の連続性を考えると次期会長の有力候補がなるべきで、むしろ会長以上に真剣な投票を各会員がして欲しい。

（副会長の役割次第で投票を行うべきとした意見）

・現在の状況では、副会長の存在感が全くなく、そもそも副会長を置く意義が感じられない。一方で、副会長という存在は必要だと思うので、副会長の役割・存在感を明確にする方向にすべき。「互選」方式も副会長の存在感をなくしている一因と思われるので、選挙のほうが望ましいかもしれない。（副会長の存在・役割が明確であれば互選でも差し支えはないと思うが）

（互選の際に得票数を参考にすべきとした意見）

・得票数を参考に、会長が指名するのがよい

■どちらでもないとした方の意見

（次期会長人材としての副会長という位置づけを意識して、投票を行うべきとした意見）

・副会長が次期会長になることを想定した上で，副会長も会長と同様に立候補・他薦制とすることも一考に値する．但しこの場合も会長同様，複数候補が条件.

（上記と、実務やりやすさの両面の重要性を併記した意見）

・副会長は、会長ほど強いリーダーシップがなくても良いので、今の互選方式でも十分機能していますが、「次期会長」候補であると自他共に認めながら副会長職をやるのは会の安定にとっては良いと思います。一方、会長がやりやすいか、という面も大事なので、運営委員からの会長指名、というのも良いと思います（今も互選とはいえ、実質はその面が大きい）。

・「互選」が曖昧な印象をうけるので、副会長も記名して投票するほうが明確ではないかと思う。しかし一方で会長と協力して職にあたれる人に就任していただきたいので、会長同様、立候補、推薦も受け付けるのがベストかもしれない。

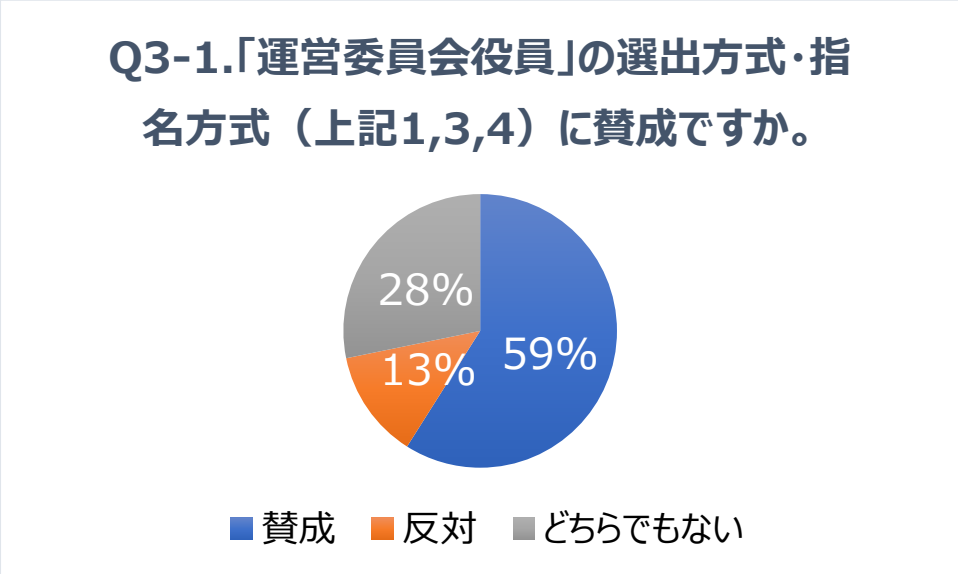
（上記と、現在の選挙制度との矛盾を指摘した意見）

・学会運営の継続性を考えると、副会長を次期会長として選ぶ方法がいいと思うが、会長が 2 期まで連続可能だと副会長は自動的に次期会長になるわけではないので、両立しないですね。

（互選が適切とした意見）

・運営委員の中から会長指名で選ぶのが無難かと思います。場合によっては運営委員以外からの追加もあり

かと思います。



■賛成の方の意見

（連続２期までとする点や会長指名がうまく機能しているとした意見）

・知り合いの研究室が集まって研究会が始まったという学会としての成り立ちの経緯もあり、微妙に偏っている多くの人がいる分野に所属する人と長く本学会に関わっている人がある程度選ばれるのは当然の流れと思います。外から見れば一方で内向的に見えて、より多くの人に入って貰うのを妨げている感じを受けます。会長などの権限として学会として今後重要視したい発展させたい分野の人も運営委員に入って貰い、学会の運営に参加することがあっても良いと思います。日本の大気科学系の総括した学会として発展して欲しいと思っていますのでこのことは重要かと思います。

・運営委員については現行通り．直接投票による完全自由投票と会長指名による追加の組み合わせが最も望ましい．

・運営委員は適度にリフレッシュした方が活性化するので、今のやり方を大きく変える必要はないと思います。

・特定の研究機関所属の会員に負担がかからないように工夫が必要かもしれません。

(ある程度候補者を絞ることのメリットを述べた意見)

・運営委員も候補が多すぎるので、ある程度の候補者から選ぶ方式にできたらよいです。(具体的なやり方についてのアイデアはありませんが。。。)

■反対の方の意見

（候補者を示したほうが良いとした意見）（会長指名は好意的）

・選挙は立候補を伴うべきと考えます。やる気のない人に役員職を押しつけるべきではないからです。とはいえ、小さな学会では人材確保が難しいでしょうから多選を禁じて（＝２年だけ頑張って下さいと立候補を説得できる)、人の入れ替わりをスムーズにするのも良いかと思います。

・本人の「やる気」がわからないので、投票先の選択が難しい。やはり自薦・他薦期間を設けて欲しい。も

ちろん自薦・他薦以外の一般会員に対する投票も有効にして欲しいが、自薦・他薦を基本にして欲しい。
・選ぶ側として，正直誰に入れてよいかわからない．以前やっていた方を選んでしまいそう（何度も選ばれる人は大変そう）．過去の運営体制など閲覧できると参考になる（今期の役員は HP に載ってる）．お名前の横に過去選ばれた回数などあるとよいかも．指名方式は良いと思う．
・運営委員会の継続性は重要だと思うので、立候補制にして委員の入れ替えを計画的にしやすい方向にした方がいいのでは？最終的にバランスを取るために会長枠を作っておくのはいいと思う。
・真摯に運営をやってくださるつもりの人が当選できない可能性があること、また、投票先がばらけやすく、少ない票数で当選となること。

■どちらでもないとした方の意見：

（現状に賛成とする意見に近いもの）
・立候補または推薦制にした場合は人数が集まらない可能性があるいますので、現行の方式で良いと思います。

（候補者を示すのも一案とした意見）
・候補者の中から選ぶ方式のほうが良いように思いますが、候補者の決め方が難しいと思います。
・運営委員も、意図せず選ばれると、アクティブではない場合があったり、そもそも向き不向きがあるので、自薦・他薦制（本人のコミットメントを確約の上）が良い気はしています。しかし、日本の文化的に、自薦他薦するか、やや心配です。とにかく、運営委員は、広く多くの人が運営に参加、参加の経験をできるようにすることが大事ですが、今の方式（直接選挙＋会長指名）でも機能させられるので、推薦制に変更するか否かは悩ましい。もう一点は、若手枠や女性枠を設けてクオータ制を入れるか？（学問上は、女性議員が 30%を超えると、一定の転換をもたらす様になる、とのこと。最低 3 割で 3 － 4 人）で、この場合、数を増やす必要があるかと思います。今の制度では、WG を導入することでこれを実質的に導入しているつもりです。

（少数の投票による当選の問題を改善するための意見）
・運営委員の定数に相当する人数分について、記名投票するのがよいと思う（現行では少し少ない人数だったように思う）。運営委員に選出されない（2 期連続で務めた）人を誤って記入してしまうことがあるので、候補者（会員）名簿でそれがもっとわかりやすくなるように示すとよいと思う。
・現在の投票による選出と会長による指名の両方からなることには賛成。ただ、対象となる会員が多すぎて、票が分散する傾向があるため、投票の方法を改めたほうが良いと思う。電子投票などで集計の手間が大幅に軽減されるならば、投票を 2 回行う（1 回目で 10 から 20 名程度に絞り、その人たちを対象として 2 回目の投票を行う）のも一つの方法ではないか。また、会長指名の委員の数を 2 名よりも増やしてもよいと思う。

（より広い層に運営委員を経験していただくのが良いとする意見）
・2 期連続で運営委員を務めた者が次の選挙の被選挙権を持たない制度は新陳代謝の観点から重要ですが、さらに進めるため（同じ顔ぶれと言われないため）には「次の 2 期の被選挙権を持たない」としてしまうことも考えて良いと思います。現行の運営委員は不安を感じるかもしれませんが、やってみればきちんと動くと思います。
・選出方式・指名方式そのものに異議はないが、似たような顔ぶれになるのは（ある程度は仕方ないにしても）問題。被選挙権について、もう少し厳しくするほうが良いのかもしれない。（例えば、2 期行なったら次の 1 期だけでなく、2 期被選挙権を持たないことにするとか、運営委員を total で〇期以上経験したら、

会長（もしくは副会長？）以外の被選挙権がなくなるとか）また、会長経験者は（会長だけでなく、運営委員についても）被選挙権を持つべきではないと思う。

（地域代表性を取り入れるべきとした意見）

・東日本、関東、西日本くらいのおおまかな区分で定員を決めるのはありかも

Q4.その他、選挙全般に関してお感じになる点がございましたら、自由にお書きください。（監事の選出などについてもご意見ありましたらこちらへお書きください）

（電子投票の有効性に関する意見）

・紙ベースは煩雑だけどしょうがないか

・電子投票ができるとよいと思う。そうすれば、票が割れた場合の、決選投票（有効投票または有権者数の何％以上の得票が得られるまで行う）も可能となるのではないか。

・ウェブ投票方式に移行できればよいと思う．ちょっと調べた限りでも，ウェブ投票を利用している学会はあった（建築学会，高分子学会，機械学会…どれも規模が大きそうですが）．

・電子投票にして投票数を増やしましょう。

（投票数の詳細も発表すべきとした意見）

・学会役員の選挙であるにもかかわず、選挙結果として会員は選出者のみ知らされ、得票数（有効投票数や誰が何票獲得し、次点は誰かなど）の情報が一切公開されないのはおかしいと思います。

（定員の変更、任期の変更に関する意見）

・運営委員を 2 名程度増員した方がよいと思います。

-定数減らす or 増やすの議論。

-会長を含む、運営委員会の任期が 2 年で良いか？ 3 年の方が良いか？

（枠などを活用して広い層に活躍してもらうための意見、辞退できる制度）

・広く多くの人が運営に参加、参加の経験をできるようにすることが大事（オープンかつインクルーシブな運営）。そのため、クオータ制（割当制）として、女性枠？（学問上は、女性議員が 30%を超えると、一定の転換をもたらす様になる、とのこと。）、若手枠、地域枠、分野枠の導入が良いかどうか、気になります。また、やる気のない人、向いていない人、時間がない人が辞退できるような制度。本人のコミットメントを確約するような工夫も必要。

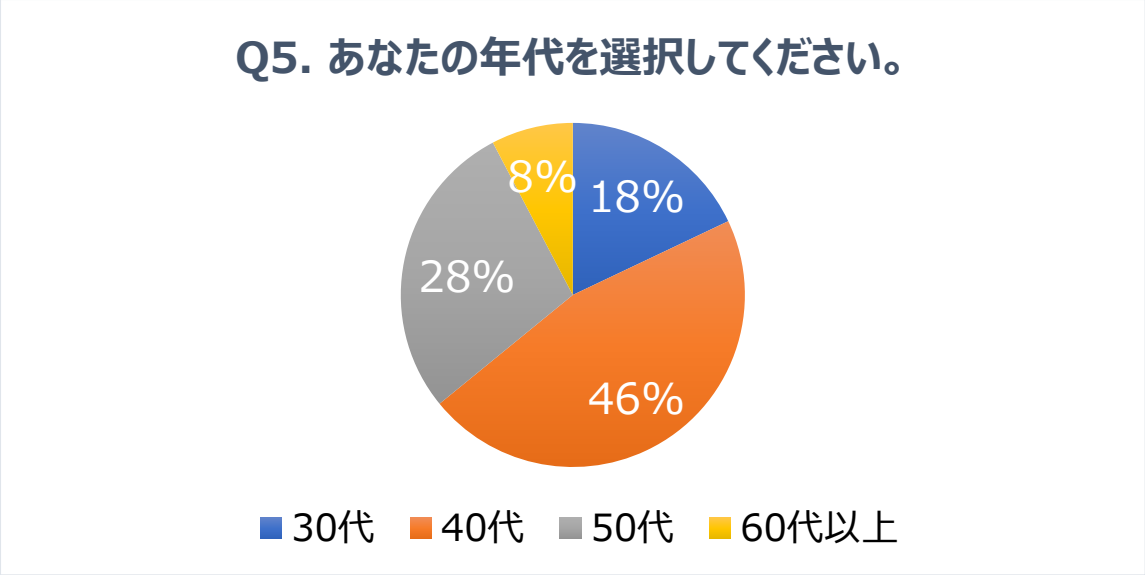
（前会長の活躍継続を期待する意見）

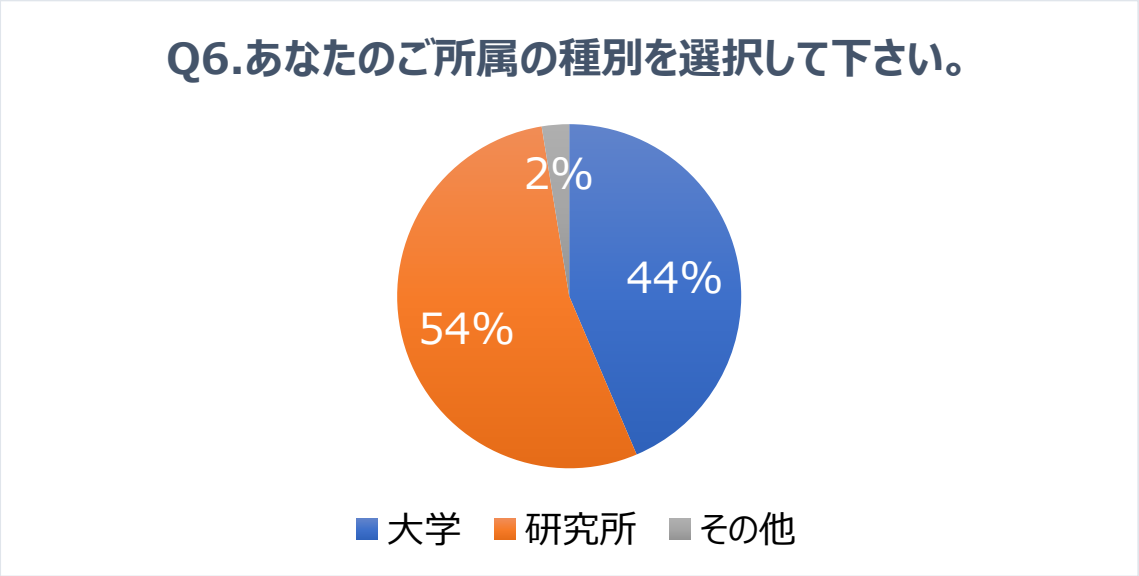
・前会長が監事となり、助言役として運営委員会に残るという考えはどうでしょうか。

（Q1-3 に関する意見再掲）

・立候補制や推薦制等により事前に候補者が絞られた方が良いと思います。

・会長は立候補制にした方が良いと思います。


Q5. あなたの年代を選択してください。
8%
18%
28%
46%
30代
40代
50代
60代以上


Q6.あなたのご所属の種別を選択して下さい。
2%
44%
54%
大学
研究所
その他

（参考）アンケート実施内容

日本大気化学会 「役員選挙」に関する会員ウェブアンケート

日本大気化学会では、前身の大気化学研究会より引き続いて、2 年ごとに正会員の皆様による「役員選挙」を行ってきました。その際の細則は、11 期(約 20 年)にわたり、以下の点について維持され、これまで見直されることはありませんでした。

---

1. 会長、運営委員会役員ともに直接選挙（立候補や他薦の制度がなく、候補者を絞らずに名簿から選ぶ、完全自由投票制。6 名迄記入、うち 1 名は会長への投票）
2. 副会長は運営委員会役員による互選
3. 運営委員会役員を 2 期連続で行うと、次回は被選挙権を持たない（会長の被選挙権は持つ）。会長を 2 期連続で行うと、次回は会長の被選挙権を持たない。
4. 運営委員会役員について、選挙により選出される 10 名に加え、会長は正会員から 2 名追加指名できる。

このことのメリットとしては、代表者を直接選ぶことによる会員参加の機会向上や意識の高まりが挙げられます。一方で、デメリットとして、(a)投票先がばらけやすく、10～20 票といった比較的少ない票数で会長や運営委員役員が当選となる場合があった（参考：正会員数 180～230 程度）、(b)同じ顔ぶれが当選しやすい（3 や 4 の工夫にも関わらず）(c)毎回、投票総数が全会員の半数程度にとどまっている、といった意見も聞かれます。また、女性参加の機会向上、地域や機関のバランス、適切な運営委員数等についても、学会の規模感や特徴を踏まえ、議論の余地があるかもしれません。

そこで、今後の健全な学会発展のために、会員の皆様からぜひご意見いただきたく、今回ウェブアンケートを実施することといたしました。いただきましたご意見は、12 期以降の役員選挙に適用される細則へ反映すべく、運営委員会での議論で活用させていただきますので、ぜひご回答をお願いいたします。ご参考に、他学会等にみられる選挙方式についても末尾に付記します。

Q1-1.「会長」についての現在の選挙方式（上記 1,3）に賛成ですか。

賛成

反対

どちらでもない

Q1-2. 「会長」についての現在の選挙方式について、メリットやデメリットとしてお感じになる点、現在の方式（完全自由投票制、直接選挙）に代わるご提案（例：立候補制、他薦制）などありましたら自由にお書きください。（※候補者が絞られるケースでは、告示方法にもバリエーション（選挙公報で氏名のみとする例、施政方針を示す例）があるかと思います。このような観点でもご意見いただければと思います）

Q2-1. 「副会長」の互選方式（上記 2）について、賛成ですか。

賛成

反対

どちらでもない

Q2-2. 「副会長」の互選方式について、メリットやデメリットとしてお感じになる点、現在の方式（完全自由投票制、直接選挙、会長指名による追加）に代わるご提案などありましたら自由にお書きください。

Q3-1.「運営委員会役員」の選出方式・指名方式（上記 1,3,4）に賛成ですか。

賛成

反対

どちらでもない

Q3-2.「運営委員会役員」の選出方式・指名方式について、メリットやデメリットとしてお感じになる点、現在の方式（完全自由投票制、直接選挙、会長指名による追加）に代わるご提案などありましたら自由にお書きください。

Q4.その他、選挙全般に関してお感じになる点がございましたら、自由にお書きください。（監事の選出などについてもご意見ありましたらこちらへお書きください）

Q5. あなたの年代を選択してください。

20 代
30 代
40 代
50 代
60 代以上

Q6.あなたのご所属の種別を選択して下さい。

大学
研究所
民間
その他

【参考資料】他学会等にみられる選挙方式

■直接選挙だが、立候補制や推薦制等により事前に候補者が絞られるケース:
例:日本地球化学会(会長、副会長、評議員、監事)、有機地球化学会(会長、副会長、運営委員、監事)、気象学会(理事)
会長の直接選挙に関し(実質的に)2 名以上の候補者を示すことを排除しないケース(AOGS)、絞られた候補者以外にも被選挙権を与え公平性を担保するケース(日本地球化学会)、役員推薦委員会が推薦(理事)または認定(会長:会員 10 名以上の推薦をもって)するケース(日本放射化学会)
■会長を直接選挙せず、役員(運営委員または理事)から互選・投票とするケース:
例:気象学会、大気環境学会、日本生気象学会、分子科学会
■副会長が次期会長となる形を想定し、副会長の選挙を重視するケース:
例:日本油化学会
■地域代表性の確保等のため、支部ごとに定められた定数をおくケース:
例:大気環境学会(理事)